



社会福祉法人 長野県社会福祉協議会

「福祉だより信州」は共同募金の
配分金で発行されています。

昭和27年1月11日
第三種郵便物認可第769号
令和元年9月25日発行
(毎月25日発行)

福祉だより 信州

No.
769
2019 10月号

よっ!
新風人



CONTENTS

みんなで取り組む地域共生・信州	2
福祉保険サービス広告	5
県社協情報局	6
おらほの縁パワー活動!・おらほの資金確保術!	7
よっ!新風人・ざわめくアート	8

ふっころ
長野県社会福祉協議会
公益キャラクター

社会とのつながりや参加の機会をつくる

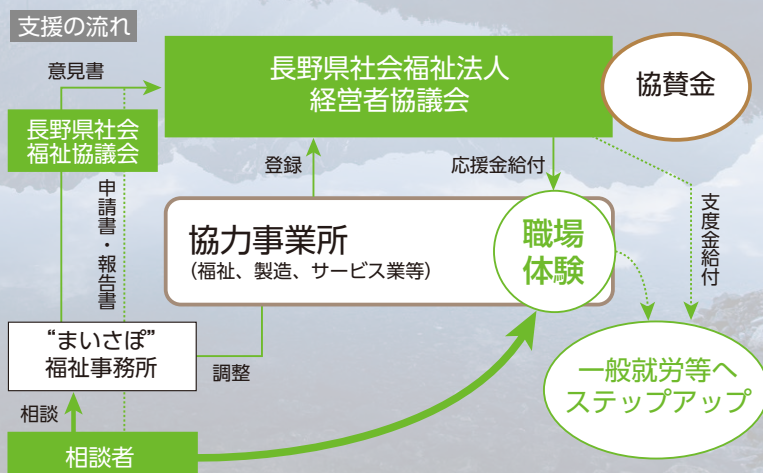
～「就職活動応援金付職場体験事業(プチバイト事業)」を通じた参加支援～

4月から8月末までの利用状況

■プチバイト
件数 33 ・金額 480,000円
■就職支度金
件数 12 ・金額 113,206円

利用者の平均年齢
■プチバイト：39歳
■就職支度金：49歳

8月現在の受入登録事業所
■プチバイト 226事業所
製造業、建設業、運送業、小売業、
清掃業、サービス業、農業、社会
福祉施設、行政機関など



参加支援／ 社会とのつながりを築く 第一歩として

前号でも取り上げた「地域共生社会推進検討会」の中間とりまとめでは、今後、「一人ひとりの生が尊重され、複雑・多様な問題を抱えながらも、社会との多様な関わりを基礎として自律的な生を継続していくことができるように支援する機能の強化」が求められるとしました。

また、参加支援（社会とのつながりや参加の支援）を包括的な支援体制の整備に必要な機能の一つとして、「本人・世帯と地域とのつながりや関係性の構築を中心に考え、場合によっては地域や参加の機会を作る主体（例えば、就労支援であれば、地域の中小企業など）への支援も行っていく必要」があり、「孤立した状態から社会参加ができるようになるまでには多くの隔たりが存在しているため、まず社会とのつながりを築く第一歩として、本人の生きがい・やりがいになる活動ができる場の提供が必要」とまとめています。

様々な事業所の協力を得て

さて長野県では、2015年（平成27年）から、地域で生活困窮や社会的孤立状態にある方々を独自に支援する事業として「信州あんしんセーフティネット事業」を実施してきました。これは、県内の社会福祉法人で構成する社会福祉法人経営者協議会が主体となり、生活困窮者自立支援機関（「まいさぼ」）と連携しながら取り組んでいる事業です。

ここでは、様々な地域や分野の事業所に職場体験の受け入れをお願いしながら、長期離職により就業への自信を無くしている方、ひきもり状態から抜け出せず社会との接点がなくなってしまうという方などに、本人の主体的な関わりを促しながら社会とのつながりや就労への意欲を喚起することを目指しています。

取材を通じて

今回は、この事業の利用者や受け入れ事業所の取材を通じて、参加の機会を作っていくことの重要性を改めて確認したいと思います。

プチバイト取材

取材先

【受け入れ企業】 合同会社MI化成 様

【利用者】 Hさん (23歳)、Mさん (19歳) 姉妹



利用者のお話から

まいさぼとの出会い

1年前に上田に引っ越し、仕事を探していたところ他機関からまいさぼを紹介されて繋がりました。

二人には発達障がいがあり、人と話すことが苦手だったので、まずはまいさぼ上田で実施しているコミュニケーション講座や自分磨き講座に参加しました。この講座はまいさぼ上田が独自で実施しており、10人以下の少人数制で楽しみながら人と関わる力を付けていくものです。「はじめは緊張しましたが自分と似た境遇の方も多く、リラックスして参加することができました」。

その後も就労準備支援事業を利用しながら就職に向けて準備をしていましたが、生活費が必要となり、自らプチバイトの体験を申し出ました。二人一緒に体験ができる所、一人で黙々と作業ができる所を希望し、「合同会社MI化成」で実施することになりました。

就労体験をとおして

合同会社MI化成ではプラスチック部品の検品作業を行いました。



Hさん

「以前接客業のアルバイトをしていたときは覚えることが多く、自分には向いていないと思いました。今回は作業内容が決まっていたのですぐに慣れることができました。今回二人一緒にプチバイトを行いました。一人では最後まで続けられなかったと思います。途中で辞めずに続けられたことが自信になりました」。



Mさん

「初日は緊張しましたが、職員の方が『わからなければ何でも聞いて』と言ってくださったので聞きやすかったです。また、作業場所を別室に用意して下さったり色々配慮していただき働きやすかったです。プチバイトをとおして最初の頃より人見知りをしなくなったと思います。まいさぼの職員さんも気さくで話しやすいです」。

今後について

Mさんはプチバイトをとおして就労を前向きに考えられるようになり、その後以前から興味があった子ども関係の仕事にアルバイトが決まり、2か月経った現在も週三日の勤務を続けています。「だんだん慣れてきたので、別の児童クラブでもバイトをして掛け持ちできればと思っています」。

Hさんは就労準備支援事業を利用しながら自分にどうい

う向いているのか、ゆっくり探し、少しずつ就労に向けて進んでいきたいと考えています。

現在もまいさぼ上田で実施しているコミュニケーション・トレーニング講座(全20回:就労準備支援事業に位置付け)に参加している二人。プチバイトでの経験が自信になり、今後について前向きに考えられるようになりました。

まいさぼより

最初は二人の仲が良すぎて他の人と関わることを拒否している様子でしたが、様々な講座やプチバイトをとおして社交性が出てきたと感じます。Mさんのアルバイト先にはプチバイト後二人で見学に行きましたが、すぐにやりたいと言ったMさんに対し、Hさんは少し考えたいという反応でした。今まで何でも一緒だった二人ですが、自分の意志を持って物事を決められるようになったのはすごい成長だと感じます。

何事もそうですが、失敗することは悪いことではなく、小さな失敗は大きなけがの予防だと考えています。失敗しても構わない。ただ、失敗しても戻ってこれるところがあることが大切です。その中で少しずつステップアップしていければいいのではと思います。

お二人にとってまいさぼは「戻ってきてもいい安心できる場所」であり、その安心感が次のステップに向けて背中を押してくれているのだと感じました。

【プチバイトのメリット】

プチバイトは終了後すぐにお金が振り込まれるので、本人のモチベーションに繋がることがとても大きいと思います。また、期間が25時間までと決められているので、「終わりが見えている」ということもハードルが低くて挑戦しやすいと思います。さらに一日3,4時間の実施であれば昼食を挟まないため、お昼時の雑談が苦手な方にはありがたいですね。



プチバイト取材

受入れ企業のお話から 【受け入れ先担当】小林 早苗さん

出会いのきっかけ

もともと上田市内のB型事業所に勤めていた職員で新たなB型事業所を立ち上げようと独立。しかし土地的に認可がおりず、現在は合同会社として運営しています。プラスチック部品の成形、検品、出荷作業と箱折り作業を行っています。今までにプチバイトとして5名を受入れました。従業員が8名という小規模な事業所なので、人と関わることが苦手な方でも働きやすいよう意識しています。プチバイトでは本人の特性に応じてプラスチック部品の検品か箱折り作業を行っていただいています。25時間という限られた時間の中でできることを考えてお願いしています。HさんとMさんにはプラスチック部品の検品作業を行っていただきました。

受け入れてみて

二人一緒の受入れでしたので、向かい合わせに座ってもらい、お互いの作業が見える形にしました。わからないところはしっかり確認してくれて、とてもよくやってくれました。プチバイト開始前に家からどのくらいかかるのか下見もしていたようで、遅刻することはありませんでした。今まで受け入れた方皆さんに共通することですが、皆さんとても責任感があり、仕事に向かう姿勢は大変まじめだと感じました。中には途中で辞めてしまう方もいますが、そのときは職員の中で、どう接したらよかったのか、もう少し何かできなかつたのかを話し合いました。専門知識がない分関わり方に迷いはありますが、まいさぼとも共有しながら私たちも勉強させてもらっています。関わるときには、①責め立てる言い方はしない②個人的なことを聞きすぎない③できたことを褒めていく④良さを認めていくことを意識しています。ただ、人それぞれ特性は違うのでその方に合わせて関わり方を考えています。仕事を継続できるように企業側の工夫も大切だと思います。

今後の想い

みなさん仕事が嫌な訳ではなく、一歩踏み出すきっかけがなかったのだと思います。仕事をしてお金を頂く喜びや仕事をとおして誰かの役に立つ嬉しさを、プチバイトをとおして感じてもらいたい。これからもそのお手伝いができればと思います。



作業場の様子



小林さん



MI化成外観

地域共生社会の実現の先には、地域で不安なく生活を続けていくことができる「あんしん未来」があります。そのためにはそれぞれの機関や分野などを超えて、それぞれができることを持ち寄り連携の仕組みを創ることが必要となります。今回のプチバイト事業のように、多くの機関や分野の方が参画しながら、人と人をつなぎ合わせ、人と資源をつなぎ合わせ、資源と資源を組み合わせ、無い資源を創り出し、地域という共同体のポテンシャルを引き出しながら、提供できる者が提供できるものを提供し合うサポータータイプな実践を展開するために、今後、長野県社協が中核となり、官民が協働して新たなあんしんを創造していくためのプラットフォームの構築を目指していくこととしています。

あんしん未来創造事業

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成31年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

保険金額

保険金の種類		プラン	Aプラン	Bプラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	1,400万円	
	後遺障害保険金		1,040万円 (限度額)	1,400万円 (限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	10,000円	
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	100,000円
		外来の手術		32,500円	50,000円
	通院保険金日額		4,000円	6,000円	
	特定感染症の補償		上記後遺障害、入院、通院の 各補償金額(保険金額)に同じ		
賠償責任の補償	葬祭費用保険金 (特定感染症)		300万円(限度額)		
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		

年間保険料(1名あたり)

タイプ		プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ			350円	510円
	天災タイプ(*) (基本タイプ+地震・噴火・津波)		500円	710円

団体割引20%適用済/過去の損害率による割増引適用

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

保険金をお支払いする主な例



ボランティア行幸用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
営業時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJK18-13568 2019.1.16作成)

平成31年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

事故・紛争円満解決のために!

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険)

1 基本補償(賠償・見舞)

▶保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見舞い等	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度 死亡時100万円 入院時15~7万円 通院時1~3.5万円

◆クレーム対応サポート補償(プラン1-①オプション4) **改定**

保険期間1年

▶年額保険料(掛金)		基本補償(A型)
定員		
補基本 償本 (A型)	1~50名	35,000~61,460円
	51~100名	68,270~97,000円
	100名以降1名~10名増ごと	1,500円
付見舞 費用 (B型)	基本補償(A型) 保険料	[見舞費用加算] 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 施設職員の補償 **改定**

プラン4 社会福祉法人役員等の補償



スケールメリットを活かした
充実した補償と
割安な保険料
です。

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、個人情報取扱事業者賠償責任保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

● このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。 ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

(SJK18-12811 2018.12.28作成)



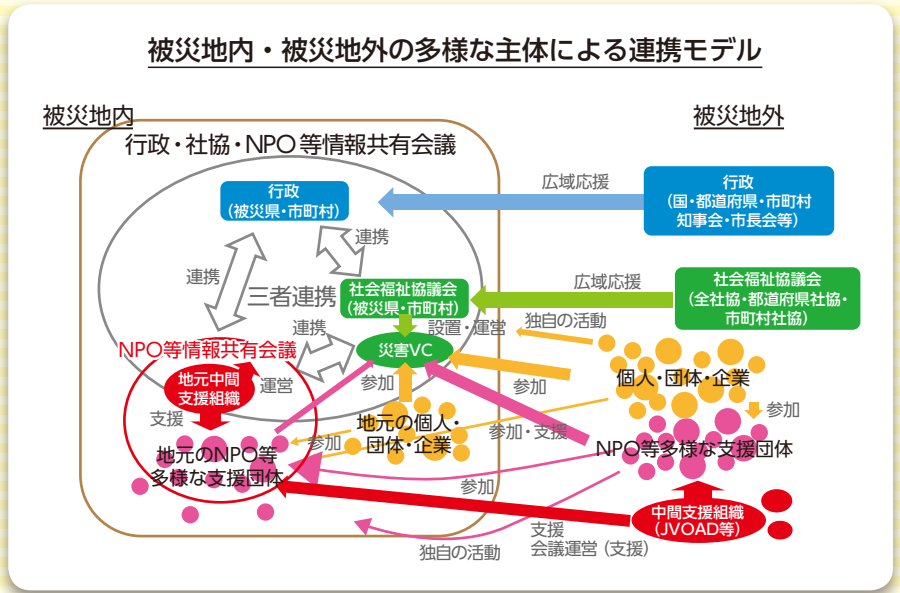
つながるBOOK(災害時連携プラットフォーム)へ参加しませんか

多様な機関・団体・個人との連携を考える

○災害支援は行政や社協だけに任せればいい? ...求められる連携の必要性

令和元年8月の前線に伴う大雨や台風15号による豪雨災害、今後発生が危惧される南海トラフ地震等、災害がとても身近になってしまいました。万が一災害の被害にあったときは、誰が何をすべきでしょうか。災害対策基本法では、地方公共団体は“住民の生命、身体及び財産を災害から保護する”責務があると記載されています。しかし、実際に災害が発生した場合は、行政組織や行政職員、その家族にまで被害がおよび行政も被災者になってしまうこともあります。また、被災地域の普段見えない生活課題が顕在化し、災害に起因する困りごとと相まって、より迅速かつ細かな対応が必要となります。

そうした中で、一つの機関や団体だけでは対応できない問題も、様々な経験やノウハウを持つNPO法人や企業、平時から地域づくりに取り組む社会福祉協議会、被災者の心に寄り添うボランティア...それぞれがお互いの強みを活かした連携をすることで災害支援の可能性が広がります。



連携イメージ: 内閣府 防災における行政のNPO・ボランティア等との連携・協働ガイドブックより抜粋

○長野県内における連携に向けた取り組み

2017(平成29)年度に長野県、長野県NPOセンター、長野県生活協同組合連合会、長野県社会福祉協議会が企画し「第1回災害時の連携を考える長野県フォーラム」を開催しました。「顔の見える関係づくり」の構築を目的に行政やNPO法人、企業、災害支援に関わる個人ボランティア等が一堂に会しました。2018(平成30)年度には、上記の団体に加え、日本青年会議所長野ブロック協議会や長野県長寿社会開発センター、長野県共同募金会、日本労働組合総連合会長野県連合会が企画に加わり、2回目のフォーラムと図上訓練を開催しました。3年目になる今年度は、フォーラムの他に、より災害関係者のネットワーク構築をお手伝いする「つながるBOOK(災害時連携プラットフォーム)」を定期的に開催しています。

○連携のお手伝いをしたい それがつながるBOOK

「つながるBOOK」は毎月第3木曜日を目安に開催しています。開催時間は概ね18:30~20:00。会社帰りの方でもフラッとよれる時間になっています。プログラム内容は、前半は災害に関するプチ学習会、後半は参加者による情報交換です。プチ学習会では、講師をお招きし、マスクや手袋の脱着方法や気象情報の解説をしていただきました。情報交換会では、自己紹介や今まで取り組んできたこと、日頃の悩み等を共有してつながりを深めています。また、開催した内容をニューズレターで伝える「つながるBOOK NEWS」を発行し、参加していない方にも情報共有ができる仕組みになっております。連携は“顔の見える関係づくり”から始まりますので、ぜひ気軽にフラッと参加してください。

申し込み・お問い合わせは以下へお願いします。

まちづくりボランティアセンター

TEL026-226-1882/FAX026-228-0130 メールvcenter@nsyakyu.or.jp



つながるBOOK NEWS



だがしやG

～人と人が「つながる」場所～

お店の前へ行くと子どもの自転車が並び、元気な声が聞こえてきます。中へ入ると、宿題をする子、お菓子を食べる子、友達と遊んでいる子、様々です。みなさんは昨年、中野市に駄菓子屋がオープンしたのを知っていますか？その名も「だがしやG」。人と人が「つながる」場所をつくりたい、そんな想いから誕生しました。Gには、元気&ご縁という意味があります。

「だがしやG」を立ち上げた傳田清（でんだきよし）さんは、もともと児童養護施設の職員でした。その後、現場を離れますが、生まれ育った地域のために何か役に立ちたい、子ども達を笑顔にしたいと漠然と考えていました。そんな時に思いついたのが駄菓子屋でした。普段は、傳田さんのお母さんが店に立ち、笑顔で地域の方と接しています。

2018年の5月13日（日）に「だがしやG」はオープンしました。その日が、ちょうど母の日とご自身の誕生日が重なる事を知った傳田さんは「産んでくれた感謝」「地域のために」という気持ちで一年前から計画をし、自宅の一角をご自身で改装します。お母さんが笑顔でいられる場、交流できる場としてお店をプレゼントしました。

コンセプトは「人と人との出会いの場」。子どもだけでなく、保護者、ご近所の高齢者、障がいを持った方、祖父母が孫と一緒に・・・誰もが安心して利用でき、立ち寄れて、交流できる場として年間累計で約1万人の方が足を運ぶまでに成長しました。

居場所を利用した活動も広がっています。店の隣にある畳12畳ほどのスペースで「いっ福サロンG」という高齢者のお茶のみサロンも始まりました。また、子ども達に物作りを通して『生きる力』を身につけて欲しい」という願いでひょうたんランプ作り・竹とんぼ作り・折り紙教室などの企画も行っています。

「自分の小さな世界観だけかもしれないけど、なんとなく中野市も明るくなった気がする。小さな変化かもしれないけれど、やがて波紋のように広がり、地域を変える大きな力になる。『すべては信州の笑顔のために』と目標を掲げ、そのために中野市をモデル地域にする」傳田さんの挑戦はこれからも続きます。



だがしやGに集まる子どもたち



だがしやG

中野市西條1089
☎080-3541-737
平日13:00～17:30
土日祝11:00～17:30
水曜日定休日



長野県独自、地域活動の寄付募集サイト —みらいベースって?—



「限界集落で学びと賑わいのムーブメントを作る!!」「子どもとおとな食堂」など、寄付を求め多数の事業企画がウェブサイト「長野県みらいベース」に常時アップされています。いずれもNPO法人など営利を目的としない団体の企画。それぞれ事業の目的・内容・使い道など、事業者の熱い想いがつづられています。目標金額は数万から数百万円まで様々。共感した人が企画を選んでインターネットを通じて寄付する仕組みです。

「みらいベース」は県が平成25年4月にオープンした寄付募集サイトです。事業企画に寄付するプログラムのほかに、企業や個人からのまとまった寄付に対して、団体側が応募し審査を通じて得られる「冠寄付・助成プログラム」などもあります。今年3月で計約7700万円の寄付を集め、累計317件の事業に助成してきました。

福祉・子ども・まちづくりを始め21の分野で約270団体が登録。知名度や信用性が高まることはもちろん、メーリングリストを通じて情報が得られるとのこと。社会福祉法人や地縁組織、そしてボランティアグループも利用が可能です。長野・松本にプログラムオフィサーが常駐、登録から事業企画の相談、キャッチコピーなど打ち合わせしながら進められるので安心です。

寄付の募集期間が数カ月から半年前後と長いこと、目標に達成しなくても集まった寄付がほぼ(運営費20%を引いて)手に入るのも特徴です。そしてなにより、県民が県民を応援する仕組み…みらいベースは「地域の支え合い」そのものなのです。



長野県みらいベースのトップ画面

運営団体:公益財団法人 長野県みらい基金

〒380-8570 長野市南長野幅下692-2長野県庁東庁舎
TEL026-217-2220 FAX026-217-2221 メールinfo@mirai-kikin.or.jp
[松本事務所] 〒390-0852 松本市島立1020松本合同庁舎1階
TEL&FAX 0263-50-5535



よっ! 新風人

毎号福祉の現場に新しい
風を吹き込むスタッフをご紹介します。

社会福祉法人 上田明照会 (上田市)
障害者支援施設
坂城ともいきライフ月影
生活支援員
丸山千晶さん



webでも
ご覧になれます

「共に生きる」すべての人が心安らかで幸せに暮らせる社会を目指し、大正7年創立され地域や多くの人々の理解や協力のもと発展を続けている社会福祉法人上田明照会。24時間寄り添い利用者さんの純粋な気持ちや日々の変化に触れることができる貴重な仕事と捉え、丁寧な支援を志し意欲的に取り組んでいる、障害者支援施設ともいきライフ月影に入職4年目の丸山千晶さんにお話をしました。

Q 今のお仕事の内容を教えてください。

A こちらに入所されている方の食事や入浴など生活全般の手助けをしています。ご家族とも生活の様子を共有して密に連携を図り相談しながら、その人らしい生活が送れるように支援をおこなっています。

Q 印象的だったことは何ですか。

A ご両親を亡くし落ち込んでいた利用者さんに、お母さんのアルバムを手作りしてプレゼントしました。初めはあまり興味を示してくれなかったけど(笑)だんだんと見てくれるようになり、笑う日が増えていったことです。そんな瞬間がこの仕事の醍醐味です。

Q 大切にしていることは何ですか。



活気あふれる丸山さんの笑顔は、周りも元気にします。



「その人らしく」を大切に。施設内にもいつも飾られる利用者さんの作品。



利用者さんと過ごす時間は、私を成長させて下さる貴重な時間です(丸山)



「利用者に学ぶ」姿勢のもと、一丸となって支援に取り組んでいます。

続きはQRコードからご覧いただけます。

A その方の心を汲み取り、少しずつ理解を深めていけることは、私にとっても楽しいこと。支援員としてだけではなく、時には家族のような立場で利用者さんの暮らしと一緒に楽しみながら、居心地よく過ごせる場所作りを大切にしています。

Q 福祉の道を目指す人へ一言お願いします。

A 大変なことも多いけれど、利用者さんの嬉しそうな姿やご家族からの「ありがとう」の言葉は、達成感を得られやる気にもつながります。自分自身を成長させてくれる素晴らしい仕事です。

一緒に考え一緒に喜び合える仲間や、いつでも相談に乗り助言をくれる上司がいて、とても働きやすいです」と話す丸山さん。その良い職場環境が、一人ひとりに寄り添った細やかな支援につながっているのだと感じました。

●ご感想、お問合せ、
掲載希望等は下記へ
お寄せください。

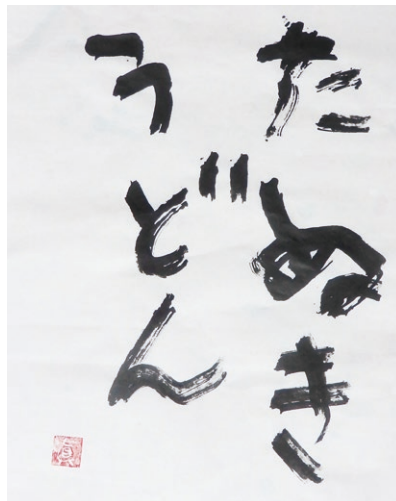
長野県社会福祉協議会
総務企画部 企画グループ
TEL 026-228-4244
FAX 026-228-0130
E-mail kikaku@nsyakyo.or.jp

webでもご覧になれます

長野県 福祉・
社会福祉協議会 介護べり帖



長野県福祉研修
実施団体 信州福祉・
きやりあねっと 介護のひろば



ざわめくアート



『無題』 筆、墨汁

作者:山崎 眞一
(やまざき しんいち) 46歳
長野市在住

山崎さんは文字を書く自信がなく、墨で文字を書くかと誘ってもなかなか応えてくれずどこかへパイッと行ってしまふ。写真はサポーターが彼の手を取って文字を書かせているようだが、これは筆を握る手をしっかりと支え、肘は軽く支えていて、彼が筆を運びたい方向に支えているだけである。決して誘導はしていない。支える手を通して彼は文字を知っており、書きたいという意思が伝わってくる。この支持がなければ彼の文字はとても読めない文字になってしまい、だからこそ今まで自信が持てないできたのだろう。『書いたぞ!』と言わんばかりの得意満面の表情。少しずつ自信を取り戻している。

(ながのアートミーティング 取材)